

いちご「阿波ほうべに」の着色不良果対策

ねらい

高度技術支援課

徳島県育成いちご品種「阿波ほうべに」は、収穫時期が早く、収量が多いという特徴がある反面、果実の色がやや薄いという欠点があり、東西畦のハウスでは、厳寒期に畦の北面果実に着色不良果が発生し問題となっています。そこで、高設栽培においてベッドの腰回りに光反射シートを展張し、光環境を向上させることで着色不良果対策について検討します。

活動地域・対象

地域：板野郡上板町

対象：いちご生産者

普及活動の目標

「阿波ほうべに」品質の向上

目標に向けた活動概要

高設ベッドの腰回りに光反射シートを展張する展示圃を設置し生育・収量・着色むら発生率等を調査しました。

- 試験区
- ① 地表面反射シート・北面
 - ② 地表面反射シート・南面
 - ③ 地表面・腰回り反射シート・北面



腰回り反射シート無し



腰回り反射シート有り

普及活動の成果

- 1) 生育は、区による明確な差は見られませんでした（表1）。
- 2) 収量は、南面区、北面区、腰回り反射シート・北面区の順で多くなりました（図1）。
- 3) 着果位置の反射照度は、腰回り反射シート・北面区南面区、北面区の順で多くなりました（表2）。

- 4) 着色不良果発生率は、1月下旬から2月中旬の厳寒期に発生が多く見られましたが、北面区が21%と最も多く、次いで南面区の13%、腰回り反射シート・北面区が6%と最も少なくなりました（表3）。
- 5) 区の規模が小さかったことから、株による生育差が大きく、収量にも影響しましたが、腰回り反射シートを設置することにより光環境が明らかに向上し、東西畦の北面においても着色不良果の発生が抑えられ、高品質の果実が収穫できることが分かりました。

表1 生育

調査日: 令和2年1月17日				
	草丈	葉柄長	葉長	葉幅
北面	25.2	16.2	9.3	7.2
南面	25.8	16.5	9.6	7.2
反射シート北面	22.4	14.9	9.4	7.5

調査日: 令和2年3月9日				
	草丈	葉柄長	葉長	葉幅
北面	27.8	19.6	9.2	7.6
南面	29.6	17.5	9.6	7.2
反射シート北面	29	18.1	9.8	7.8

*5株平均値

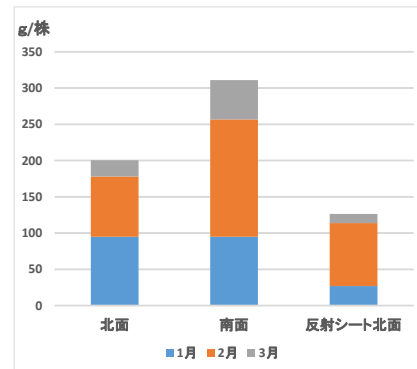


図1 時期別収量

表2 反射照度

調査日: 令和2年3月9日 曇り	
	照度 (lux)
北面	3,280
南面	3,820
反射シート北面	4,280

*ASONE LM-332使用、着果位置から下向きに測定し、1区当たり10地点の平均値を示した

表3 着色不良果発生率

	1/上	1/中	1/下	2/上	2/中	2/下	平均値
北面	100	0	25	33	66	0	21
南面	50	0	20	0	15	7	13
反射シート北面	0	0	0	33	25	0	6

今後の発展方向

着色不良果対策として、高設ベッドの腰回り反射シートの設置を普及させ「阿波ほうべに」の品質向上を図ります。

関係者からの声

今までベッドの北面では着色不良果が多く困っていましたが、反射シートを張ることで大きく改善し、秀品率が向上しました。

○高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922